

第1回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

日時 平成30年12月26日（水）13:30～14:30

場所 応接室（本庁舎2階）

出席者 委員長：知事

委員：小野広司、菊池信太郎、佐々木孝司、蜂須賀禮子、本多環、
横田純子（50音順）

事務局 企画調整部 櫻井部長

企画調整課 吉田課長、佐藤主幹、渡邊主任、佐久間副主査、岩淵副主査

1 全体的な趣旨等について

- ・震災があったからこそ福島にいたいという人たちや、風評を気にする人たちにも伝わる中身にしたい。
- ・改元を直前にした、新しい時代への期待感や平成最後という雰囲気盛り込んではいかがか。
- ・中通り、会津の方々にも共感してもらえるような中身にしてはどうか。
- ・福島だからこそ、多様性を認め合って受け入れることが大切。
- ・海外でも福島は有名であり再来年はオリンピックもあるので、カッコいい福島、クール福島が伝わるといい。
- ・知事としての思いや気持ちを入れてほしい。
- ・全国の人がこのことをきっかけに「福島のことを知ってみよう」という思いを持ってもらえたら良い。

2 構成について

- ・事務局提案のとおりで良いのではないか。
- ・文字数の制約のなかで、光の部分の具体例はある程度絞りつつ一つ一つを丁寧に伝え、影の部分はもともとの数字の背景を伝え厳しい中でも進んでいることが分かるようにすると良いのでは。

3 これまでの振り返り等について

- ・高校生の前向きな言葉を見かけた。今年もそういったそれぞれの思いに触れながら考えていきたい。
- ・復興応援としてではなく、普通に観光に来て楽しんでくれた人がいた。そういう人たちがたくさん来てくれる福島にもう一回戻りたい。
- ・全国で災害が多発していることもあり、福島への関心が薄れつつあるなか、他地域への思いやりなども含めてみてはいかがか。
- ・「ふくしまを十七文字で奏でる事業」が非常に良かった。
※平成31年度「ふくしまを十七文字で奏でよう絆ふれあい支援事業」
子どもと大人がペアで作る五・七・五を通して、子どもの豊かな心を育む取組。

4 復興の現状等について

- ・ 着実に進んでいる福島の状況を伝えたい。
- ・ 地元で学ぶ喜びや働く喜び、そして生きる力という、災害によって休んでいたものが燃えてきた、動き出してきたということを記載してはどうか。
- ・ どんどんチャレンジしていく姿勢が出てきていることを盛り込んでいただきたい。
- ・ 文字数の制約のなかで、光の部分はある程度絞りつつ、影の部分は数字の背景が分かるように記載した方が良いのでは。[再掲]
- ・ 帰還困難区域の近くでも事業再開が始まっている。
- ・ 小中学校がオープンしたという明るさの一方、子どもに特別の負担をかけてしまっている現実もある。

5 今後の方向性等について

- ・ 改元を直前にした、新しい時代への期待感や平成最後という雰囲気を感じ込んではいかがか。[再掲]
- ・ 震災から8年目は、悲しみのなかから一歩大きく踏み出すような時期であってほしい。

6 呼びかけ等について

- ・ 復興の進んでいる地域とそうでない地域、両方に対して呼びかけていくことが大事。
- ・ 手をさしのべる、心に寄りそう、そういった支えが大事では。
- ・ 避難している人たちを無理に戻すのではなく、福島に住むことが幸せなんだよというメッセージを出していただきたい。
- ・ 未だに辛い思いをしている人たちに「いつまでも待ってるよ、いつでもいいから戻っておいで」というような温かさが伝わるメッセージが送れるとよい。
- ・ ハード面も大事だが、人を主語にしたメッセージのほうがどの人にも伝わるのではないか。

7 発信方法等について

- ・ 県のホームページなど正攻法だけでなく、著名人や女性、外国人などにも発信してもらえるような仕掛けが必要では。
- ・ 海外でも福島は有名であり再来年はオリンピックもあるので、かっこいい福島、クール福島が伝わるといい。[再掲]
- ・ ローマ字の「FUKUSHIMA」はネガティブなイメージがあるが、ポジティブなイメージに変えていくためにも、発信の仕方は大事。